

## ■第13回あきたスマートシティ協議会 議事録

日時	平成27年3月20日（金）14:00～15:30	
場所	秋田市環境部大会議場	
参加者 (敬称略)	推進 委員	特定非営利活動法人科学協力学際センター川添理事長（委員長） 東北電力株式会社秋田営業所 杉田専門役 東部ガス株式会社秋田支社 保坂副支店長 一般社団法人あきた地球環境会議 福岡理事兼事務局長 秋田県産業労働部資源エネルギー産業課 赤川課長（代理：加賀谷主査） 秋田県生活環境部温暖化対策課 高橋課長 株式会社日本総合研究所 総合研究部門 小長井マネージャー 日本アイ・ビー・エム株式会社 Smarter City 推進 加茂部長 ジョンソンコントロールズインク（米国本社）三田村ディレクター（代理：割田グループ長） アイ・エム・サービス株式会社 大山統括部長 秋田市環境部 古里部長 計12名（順不同）
	事務局	秋田市環境部、株式会社日本総合研究所
	資料1	あきたスマートシティ・プロジェクト推進協議会 委員名簿
	資料2	情報統合管理基盤 WG 報告資料
	資料3	ESCO・LEED WG 報告資料
	資料4	ライフイノベーション WG 報告資料
	資料5	低炭素モビリティWG 報告資料
	資料6	地産エネルギー事業 報告資料
	資料7	あきた次世代エネルギーパーク事業 報告資料
	資料8	平成27年度の活動方針について 報告資料
	資料9	第12回推進協議会議事録
	参考	環境省「低炭素・循環・自然共生」地域創生実現プラン策定事業 について

## 1 ワーキンググループ活動報告

各ワーキンググループより活動報告を受け、その後討議を行った。

主な議論は以下の通り。

### (1) 情報統合管理基盤ワーキンググループ

委員 再エネ賦課金により毎年電気料金の単価が上昇するため、電気料金でエネルギー削減を評価すると、効果が出ていないように映る。エネルギー削減効果は電気料金ではなく、CO<sub>2</sub>削減量で評価すべき。

### (2) E S C O ・ L E E D ワーキンググループ

委員 中小企業向け省エネルギー設備等導入支援事業を秋田市内の中小企業に紹介し、利用を進めて行きたいと考えている。1件当たり、最大1500万円まで補助される。

委員 中小企業の社長は日々の業務に追われているので、申請書のサポートも含めて取り組むのが良いと思われる。

### (3) ライフスタイルイノベーション ワーキンググループ

委員 来年度は、庁内横断的なライフスタイルの勉強会を実施し、それをベースにしたプロジェクトチームを組成する予定。

委員 商店街との連携は困難とあるが、どのような意味か。

委員 場所の確保が難しいこと、過去に駅前を駐輪禁止区域にした経緯があることから、商店街内のパークレット設置は難しいという意味。

委員 表現を変えた方が良いものと思われる。

委員 料理教室は東部ガスも実施しているが、毎回満員である。一見違和感があると思われるが、知らない人同士で仲良くなれることが人気の要因である。実施にあたっては、ことの運び方が重要である。

委員 町の公民館に高齢者が集まって、料理を作る取組が他地域で見受けられる。そのような取組に仕立てることは可能ではないか。

### (4) 地産エネルギー事業 ワーキンググループ

委員 秋田市は今後、どの発電に力を入れていくのか。

秋田市 風力もしくはバイオマスを検討している。地形の特性上、風力が最も有力である。

委員 小型風力及び小水力の調査研究とは何か。

秋田市 小型風力はどの程度採算性について、調査している。小水力については、実現可能か否か調査している。

## 2 来年度活動方針

秋田市より来年度の活動方針の報告後討議を行った。主な議論は以下の通り。

委員 省エネ・創エネ・ライフスタイルとあるが、通り一遍の言葉に聞こえる。

最終年度では、秋田らしさがでるような取組にまとめて行けると良い。

秋田市 来年度は協議会を夏と冬に一回ずつ行う予定である。

## 3 その他

### (1) 環境省「低炭素・循環・自然共生」地域想定実現プラン策定事業について

委員 環境省「低炭素・循環・自然共生」地域想定実現プラン策定事業を応募した。事業の実施者について、秋田市が推薦する地域固有団体が行うこととなっている。応募数が多いため、必ず補助を受けられるわけではないが、採択された場合、1000万円程度補助される。